



メダカの卵の油のつぶは何なの

メダカの赤ちゃんのための栄養分

メダカは、細かい糸のようなものがついた卵を産み、その糸で水草などに卵がからみつきます。卵は、10日ぐらゐると、ふ化します。かえったばかりの子魚は、おなかの所に、まだ、卵の残りのような丸いものがくっついていて、その中にも、油のつぶが見られます。

メダカの卵が子魚になるまでの間の必要な栄養分は、卵の中に入っています。この油のつぶのように見えるものは、その一部です。お母さんが、卵にわたした、お弁当のようなものです。サケの卵であるイクラにも、油のつぶが見られますね。

かえったばかりの魚のおなかにも油のつぶがある

メダカやサケの赤ちゃんは、卵からかえってすぐは、えさはいりません。このおなかについている卵の残りとお弁当の残りが残っているからです。子魚のおなかについている卵の残りのようなものは、だんだん小さくなってなくなり、2~3日すると、子魚は自分でえさを食べるようになります。卵からかえったばかりの子魚が、自分で動き回ってえさがとれるようになるまで、このお弁当のおかげで、敵から身を守ることができるわけです。（監修・安部 義孝）

